

令和2年度事業報告（事業の状況）

公益目的事業

本県木材関連産業の振興を図る事業

（1）情報収集提供事業

本県木材関連企業における製品開発や加工利用技術の向上に資するため、秋田県立大学木材高度加工研究所の試験研究成果、木材・木製品に関する法令や制度の制定・改正情報、各種研修会や講習会の開催案内、木材関連の新技术情報、当機構の業務紹介などについて、情報紙及びホームページにより適時広範な情報発信を行った。

1) 情報誌の発行

情報紙「木材加工最前線」を出捐団体や賛助会員をはじめ、県内の林業・木材関連企業や行政機関、県内外の試験研究機関等へ配布した。

（発行回数：3回（90～92号）／発行部数：各号650部）

NO.	発行部数	発行日	主な内容
第90号	650部	R2. 8. 7	木材高度加工研究所から～なくてはならない森林・木材の研究機関に / ツキノワグマが嫌がる木杭を開発 / 令和2年度木材高度加工研究所運営協議会について ほか 木材加工推進機構から～秋田県木連 原木の共同仕入れと製材品の輸出計画 / あきた木造建築塾が開催されました ほか
第91号	650部	R2. 12. 25	木材高度加工研究所から～鉄を染み込ませた木材を炭にして機能性吸着剤をつくる / 今年も基礎講座に多くの市民が参加 / 研究成果を全国へ発信 ほか 木材加工推進機構から～第1回ウッドファーストあきた木材・木質化建築賞 / 夢広がる木の空間の創造 木材利用提案コンクール ほか
第92号	650部	R3. 3. 30	木材高度加工研究所から～「一乗谷朝倉氏遺跡出土焼損文書」の保存について / まずは災害復興指針と協復興計画の策定を / 非接地用途外講木材の耐用年数予測を目指して ほか 木材加工推進機構から～新しい素材・新しい機能に注目集まる / 秋田県のコロナ対策事業の成果 ほか

2) ホームページの運用

当機構の業務紹介、各種研修会や講演会の開催案内、最新の木材製品情報、木材関連産業のトピックスなど各種情報をホームページに掲載し、広く情報の提供を行った。

◎ 更新回数：HP 4回、FB 3回 / トップページへのアクセス数：2,041件

(2) 技術指導・移転事業

木材関連企業が抱えている木材製品の生産、加工、利用に関する技術的課題の解決をサポートするため、各種相談対応、現地指導、企業訪問、技術開発支援を行った。

1) 相談対応

来訪、電話等により企業から寄せられる諸課題に木高研と連携しながら対応し、必要に応じて資料送付、関連情報の収集提供、データ恵与、事例紹介などを迅速的確に行った。

◎ 相談件数：49件

① 内容別内訳

(件)

加工技術	生産技術	利用技術	情報提供ほか	計
9	2	15	23	49

② 業種別内訳

(件)

林業	木材加工	流通	建築設計	行政	試験研究	その他	計
2	26	3	0	4	4	10	49

2) 現地指導

企業からの派遣要請に基づき、当該企業が抱えている技術的課題の解決に適任の指導者を当機構の顧問、技術コンサルタントなどの中から人選し、直接企業に赴いての現地指導を行った。

◎ 顧問指導：実績なし / 技術コンサルタント指導：3社

区分	指導日	対応者	企業名	内容
顧問指導				実績なし
コンサルタント	R2.5.21	木材高度加工研究所 所長高田克彦氏	ニツ井パル社(株)	講話「米代川流域の木材生産と業界の発展に向けて」について
コンサルタント	R2.6.17	木材高度加工研究所 准教授足立幸司氏	秋田木工(株)	「ブナ天乾材の曲げ加工時に折れる原因と予防策」について
コンサルタント	R2.7.21	雲雀忠雄氏	能代市技術開発センター	「木工旋盤・ろくろ旋盤の加工技術」について

3) 企業訪問

木高研の研究成果の民間への移転可能性を探るとともに、企業ニーズを把握して研究課題に反映することをねらいとした企業訪問を実施した。

◎ 訪問企業数：80社（団体など含む） 社（延べ）

林業	製材	合板	集成材	フローリング	プレカット
6	32	1	11	2	1
チップ	家具木工	建具	流通市場	工務店	その他
1	2	0	10	0	14

(3) 啓発研修事業

新製品開発に意欲のある企業や、社員の技術研鑽・知識向上に取り組む企業などを支援するため、公開講演会及び技術研修会を開催した。

1) 公開講演会

木材高度加工研究所の研究内容や成果を業界関係者、行政、他研究機関などへ広く周知するため、能代市、能代木材産業連合会と連携して研究所講演会を開催した。

開催日	会場	参加者	講師	演題
R3. 2. 1	能代市文化会館	100名	木材高度加工研究所 所長 高田 克彦	「脱炭素社会の実現に向けた森林資源の利活用の重要性」
			木材高度加工研究所 准教授 野田 龍	「スギ材を用いたクマ被害対策への取り組みについて」
			木材高度加工研究所 教授 栗本 康司	「隅におけない炭のはなし」

2) 技術研修会

既存の製材、集成材、合板等に加え、公共・民間施設における木材の利用拡大を図るためセミナーを開催した。

あきた木造建築塾開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	講師	演題・テーマ
R2. 7. 31	秋田市文化会館	20名	秋田県林業木材産業課 副主幹 柴田 悟氏 木材高度加工研究所 所長 高田克彦氏	・ 建築講座概要説明 ・ 森林資源と木材利用 ～地球環境、森林資源、林業～ ～新たな木質系材料の利用～
R2. 8. 20	秋田市文化会館	20名	木材高度加工研究所 准教授 岡崎泰男氏 木材高度加工研究所 教授 中村 昇氏	・ 木材と木質材料 ～木材製品の種類やその特性など～ ・ 建築と木材

R2. 9. 29	秋田市 文化会館	20名	秋田県木材産業（協）連合会 専務理事 橋場忠則氏 ティンバラム（株） 設計・技術部長 日景孝氏	・製材の規格について ・TIMBERAM 今ここにはない形・ 技術をつくりだす
R2. 11. 18	秋田市 文化会館	20名	木材高度加工研究所 教授 山内秀文氏 木材高度加工研究所 准教授 野田 龍氏 チーム木協同組合 藤田 剛氏	・新たな木質材料の開発 ・土木分野での木材利用 ・地域材を利用した中大規模 木造建築の設計
R2. 12. 17	秋田県 児童会館	73名	(株)竹中工務店 木造・木質建築推進本部 本部長 松崎裕之氏	・木造建築の現状と今後の展 望について

学生を対象にした設計コンペの開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	審査委員等	演題・テーマ
R2. 11. 25	秋田県 社会福祉 会館	8名	審査委員長 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏 ほか委員7名	・木材利用提案コンクール応 募作品の審査 (応募作品数 32点) 最優秀賞1点 優秀賞2点 特別賞1点 佳作3点
R2. 12. 17	秋田県 児童会館	73名	木材利用提案コンクール 表彰式 審査委員長講評 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏	作品：秋田県児童会館内ロビー に展示

技術アドバイザー派遣事業（県受託事業）

開催日	会場	参加者	技術アドバイザー	目的・内容
R2. 9. 25	大館市総合 福祉センター	13名	木材高度加工研究所 所長 高田克彦氏	第1回大館市木材利用推進会議 「森林資源と木材利用について」
R2. 11. 6	大館市中央 公民館	16名	木材高度加工研究所 准教授 足立幸司氏	第1回大館市木材利用推進会議部会 「木材の利用について～破～」
R2. 11. 19	大館市役所	13名	木材高度加工研究所 所長 高田克彦氏	第2回大館市木材利用推進会議 利用促進計画案について講評ほか
R3. 1. 25	大館市役所	15名	木材高度加工研究所 准教授 足立幸司氏	第2回大館市木材利用推進会議部会 利用促進計画案について講評ほか
R3. 2. 10	大館市役所	12名	木材高度加工研究所 所長 高田克彦氏	第3回大館市木材利用推進会議 取組み状況や計画案へのアドバイス

収益目的事業	木材に関する調査・研究等を行う事業
--------	-------------------

企業や官公庁から発注される次のような木材に関する調査・研究事業等を行った。

- 1 企業からの依頼により、製材品・集成材・家具等の強度試験、木材の含水率や摩耗などの物性試験、梁の耐火試験のほか、ホルムアルデヒドの放散量測定など、製品の品質管理や新製品開発過程などで必要とする各種の試験を実施する。
- 2 国の各省庁が発注する木材の調査・研究に関する業務を受託する。
- 3 自治体等などからの依頼を受け、木製ダム・木柵・木橋等の木製構造物の劣化等の診断をする。

◎依頼件数：51件

分野	件数	主な試験内容
強度試験	18件	<ul style="list-style-type: none"> ・集成材の曲げ試験 ・椅子の耐久性試験 ・接合部のせん断試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>
物性試験	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・製材の含水率試験 ・パネルの音響透過損失試験 ・フローリングの摩耗試験 ・接着性能試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>
耐火・燃焼試験	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・梁の耐火試験 <p style="text-align: right;">ほか</p>
その他	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティクルボードのホルムアルデヒド放散量試験 ・CLT橋の調査 <p style="text-align: right;">ほか</p>

■貸借対照表■

令和3年3月31日現在(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,850,889	7,381,359	△ 1,530,470
定期預金	0	0	0
未収金	17,436,700	5,909,224	11,527,476
流動資産合計	23,287,589	13,290,583	9,997,006
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産投資有価証券	476,934,000	550,304,000	△ 73,370,000
基本財産合計	496,934,000	570,304,000	△ 73,370,000
(2) 特定資産			
定期預金	115,000,000	115,000,000	0
特定資産合計	115,000,000	115,000,000	0
(3) その他固定資産			
電話加入権	144,000	144,000	0
備品	2,161,575	2,623,275	△ 461,700
その他固定資産合計	2,305,575	2,767,275	△ 461,700
固定資産合計	614,239,575	688,071,275	△ 73,831,700
資 産 合 計	637,527,164	701,361,858	△ 63,834,694
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	9,033,462	1,466,067	7,567,395
預り金	100,709	117,778	△ 17,069
流動負債合計	9,134,171	1,583,845	7,550,326
負 債 合 計	9,134,171	1,583,845	7,550,326
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	570,304,000	600,000,000	△ 29,696,000
基本財産評価損益	△ 73,370,000	△ 29,696,000	△ 43,674,000
指定正味財産合計	496,934,000	570,304,000	△ 73,370,000
(うち基本財産への充当額)	(496,934,000)	(570,304,000)	0
2. 一般正味財産	131,458,993	129,474,013	1,984,980
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
正味財産合計	628,392,993	699,778,013	△ 71,385,020
負債及び正味財産合計	637,527,164	701,361,858	△ 63,834,694